

童

2021年3月19日。

大雪でスタートした今季の冬も、終わってみれば暖冬少雪だったようです。冬が遠くへ去ってしまった、そして、大地の周囲でクロカンや雪遊びをしたことが、幻のように思える春を迎えています。

しかしながら、コロナの影響下、登園してそのまま外遊びの暮らしのお陰で、雪遊びは充実したものになりました。できるチャンスのある時にやる！！ チャンスを逃さない！！ 先延ばしにしない！！ こんな格言は、今後の雪遊びに当てはまるかもしれません。南国や雪の少ない地域の皆さんは、雪が降ったときはこれぞ逃してはいけないチャンスとばかりに思いきって遊ぶ・・・ これからの時代を考えると、長野も油断せずに！？ ある時にたっぷり雪遊びを楽しむ事が迫られているような気がします。スキーにクロカン スノーシュー 雪山登山 スノーハイキング 雪中キャンプなどなど・・・ 雪のある特権遊びを今のうちに十分楽しんでおきましょう。後悔しないように。季節変動が激しい中、ありきたりですが 一日一日を、全力で今できる事を、満喫して季節に向き合っていくことを大切にしたいと思っています。

今年度は、コロナ下で、世界中が前代未聞な暮らしを余儀なくされてきました。大地も、もちろん、行事をはじめ、各種の催し物、暮らしのリズムなどの変化もありました。まだまだ油断のできない日々が今後も続くと思われまふ。

大地創業以来「子どもの日々の時間は子ども自身のために使うものであり決して大人や第三者のためにあるものではない」と言う理念は変わりありません。どんな状況にあろうとも、子どもサイドに立ち、子どもファーストで、考えていくことを忘れずに行きたいと思っています。そのために、今までにない創意工夫 アイデア 発想の転換が求められ、それが子ども達の明るい未来につながると信じています。

世に言うコロナとの新しい時代（ITやAIではなく）でなく、素朴で自分の暮らしを自分で受け持つ時代へ向かう方向へ転換していく流れを、大地は築いて行きたいと願っています。



【忘却の幸福】

「西洋人は記憶喪失症と受け取るかもしれないが、過去一切を水に流すのが日本人の流儀」「昔のことは思い出さない」「不愉快なことは一切忘れ、愉快な事だけを思い出すという心術に長じている」「これこそは」人生の幸福を獲得する最高の方法だという悟り」

痛みが続く人々をよそに、忘却の幸福を広げてきた。電力不足に陥った10年前、過剰なほど便利な生活を見直そうとの声もあった。「使いたい放題」の世の中はどこまで変わったろう。冷房が効きすぎて真夏でも寒い店内。煌々と輝くネオン。深夜まで延々と通販番組が続くテレビ・・・ 見渡せば、痛恨事から学べない「不幸」のただ中にいる。

(以上 3. 11付け 信毎の斜面より)

同日付けの信毎記事に、脚本家倉本聰さん（ドラマ北の国からの生みの親）が 同じく「人間の生き方そのものだ、今こそ素朴な生き方を」とありました。

震災後 東北沿岸には高い防潮堤が完成。海の見えない場所、夕日の見えない場所、波音が聞こえない場所になってしまいました。そこが「古里」と呼べるのでしょうか。大規模な公共工事が風土を破壊しています。その意味で「復興」ではなく「改興」です。復元するのではなく、コンクリートで固めた「新しい世界」を造り出して、被災地からまた古里を奪ってしまいました。

震災後、できるだけ電気を使わない、化学エネルギー（ガソリンや灯油など）、貧しくても幸せな生き方がムーブメントになるかと思いました。北の国の黒板五郎のような。でも、すぐに忘れ去られました。なぜでしょう。目先に楽しいことがありすぎるからです。

戦後の高度経済成長で生まれた、日本という「スーパーカー」は2つの部品を付け忘れしました。ブレーキとバックギアです。先ばかり見ている。このいびつさがどんどん現れてきました。

僕は時々 ロウソクの明かりで風呂に入ります。減り方を見れば、どれだけエネルギーを使ったか分かる。電気を使うたびに、メーターを見に行く人はいません。今、人間に問われているのは、そういう素朴な生き方ができるかなのです。

喉元過ぎれば・・・と言う繰り返して、自分たちも偉そうなことは言えないけれど、過去の教訓 学びを生かさないと、いつまでも現状維持、更に問題視点も気づかなくなってしまう。未来を考えなくなってしまう。このままではたしていいのか 未来からの贈り物である子ども達の将来に。

ケチと節約は違ふと、従来考えている。無駄 虚栄 見栄 などを省き、本当に自分にとって必要なことを実践する。日本は 平安時代鎌倉時代それ以前から電動工具がない時代において、素晴らしい建築物を残してきた。そして素晴らしい文化も。いつも思うが、現代のように何でも揃っている時代だからこそ、その時代に負けない暮らしができるかと信じて、自分で何もかもやろうと実践してきた。できないはずはない、同じ手足を持った人間なのだから。

それがいつの間に、暮らしのほとんどを他人に、業者にやってもらう時代になってしまった。家作り 食べ物作り 車のメンテナンス、移手段・・・ 他人にお願いすると必然的に謝礼が必要となる、その謝礼を働いて捻出する。自分でやれば謝礼は自分に払えば良い。出来上がりや見栄を気にすれば、自分より上手な人に頼みたい。

また、時給計算して、1時間で自分は3000円稼げる。この時間を掃除会社に任せれば 時給1000円でお願ひできる。それならば、他人に任せた方が、2000円得するし、相手も仕事にありつけて感謝されるだろう。これが、現代のシステムか。時間を効率的に生かす、使う論理だろう。

しかし、暮らしの質的な充実感 自分のスキル向上 災害や緊急時の時 他人が困った時 不測の出来事など 精神的な充実度 豊かさは違ふ。人との結びつきも違ふと思う。最初は、効率的でもないし経済的に逆に損失するかもしれないが、技術やノウハウを身につければ、最終的には 物心共に 良いことだらけとなる。更に、自分の腕が上がっていく事が明確になり、クリエイティブな事にどんどん挑戦したくなる。そうすると、時間の使い方、生み出し方が上手になってくる。忙しさを楽しめるようになる。好きなことをして忙しいのだから。そして、毎日が刺激的で、いかに楽しむか、いかに創造的に過ごすかを考えるようになる。その暮らしは、いつの間にか 自分で受け持つようになり、結果的に、無駄がない節約できる暮らし、そして 大好きなことや必要な事にエネルギーをかけられるようになる。これが、ケチと節約の分岐点だと思う。(節電 徒歩自転車バイク使用 コンビニ行かない 風呂洗濯少々 多数・・・)

先日 桜の苗木を 50 本ほど 黙々と植えた。穴を掘り 土をかけ、添え木に縛り付けた。駐車場から畑 大地のスロープ 高社の丘斜面 全てに。成木になり 桜の丘になるのは 20 年後だろう。その時も、自分を含めて 子ども達も、スマホではなく シャベルや鎌を手を、手作りお弁当持参で花見を楽しんでいることを夢見ている。

「温かい機能的な洋服を子どもに与える前に、寒さや暑さに耐える身体をまずプレゼントする 自分たちは」と長男夫婦から教えられた。彼らは、素朴にそして豊かに生きることを実践し、私たち親に示してくれている。まさに、倉本聰さんの通りの生き方をしているような気がする。